

科目名 解剖生理学	配当時期 1年次 前期	講義担当者
時間割表記名 解剖生理学	単位数 2単位	松野 健二郎
	時間数 60 時間(30 回)	

事前学習内容

予めハンドアウト資料を配布し、ロイノートには、資料記入済と教科書記入済のお手本ファイルを upload する。それらを予習課題として、資料と教科書に書き込んだ上で講義に望む。解剖学の用語は難解なものが多いので、予習すると用語に親しみやすくなり、講義が理解しやすくなる。

授業目標

1. 発生学を土台として形と機能が表裏一体であることを学ぶ。
2. 各臓器の簡単な模式図を覚え、その仕組みを説明できるようになる。
3. マイノート作成と国家試験過去問課題を成績の一部として評価する。これにより、自分で調べて学ぶという習慣ができ、勉強が楽しくなる。医療人に必要な自己問題解決能力が養成される。
4. 本科目の国家試験問題に関して、必要な知識と考察・推測力をつけ、十分な得点ができるようになる。

DPとの関連

- DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解できる。
- DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。

授業の流れ

回	学習内容	方法	備考
1. 4/17 II 限 2. III 限 3. 4/24 II 限	1. イントロダクション 1) 学習目標と学び方、解剖概論 2) 細胞学(1) 3) 細胞学(2)、	講義	
4. III 限 5. 5/1 II 限 6. III 限	2. 栄養の消化と吸収 1) 四大組織、口・咽頭・食道の構造と機能 2) 胃・小腸・の構造と機能 3) 大腸・肛門・肝胆膵の構造と機能・腹膜	講義	
7. 5/8 II 限 8. III 限 9. 5/15 II 限 10. III 限	3. 呼吸と血液の働き 1) 呼吸器の構造(1) 上気道、気管 2) 呼吸器の構造(2) 気管支、肺 3) 呼吸生理 4) 血液	講義	
11. 5/22 II 限 12. III 限 13. 6/5 II 限	4. 血液の循環とその調節 1) 循環器系概論、心臓構造(1) 2) 心臓構造(2)、心機能 3) 心臓構造(3)、動脈系	講義	

14. Ⅲ限 15. 6/12 Ⅱ限	4) 静脈系、リンパ系 5) 血液循環の調節	講義	
16. Ⅲ限 17. 6/19 Ⅱ限 18. Ⅲ限	5. 体液の調節と尿の生成 1) 腎臓 2) 尿路 3) 体液の調節	講義	
19. 6/26 Ⅱ限 20. Ⅲ限	6. 内臓機能の調節 1) 内分泌概論、各論(1) 視床下部・下垂体系 2) 各論(2) その他の内分泌器官、ホルモンによる調節	講義	
21. 7/3 Ⅱ限 22. Ⅲ限 23. 7/10 Ⅱ限 24. Ⅲ限	7. 生殖・発生と老化のしくみ 1) 男性生殖器、性差 2) 女性生殖器・性周期 3) 妊娠・胎児 4) 出産・成長・老化	講義	
25. 7/17 Ⅱ限 26. Ⅲ限 27. 7/24 Ⅱ限 28. Ⅲ限 29. 9/11 Ⅱ限 30. Ⅲ限	8. 身体の支持と運動 1) 骨学・筋学概論 2) 関節と運動、筋生理 3) 上肢の骨格と筋 4) 下肢の骨格と筋 5) 体幹・頭頸部の骨格と筋 6) 運動器のリハビリテーション	講義	
31. 9/18 Ⅱ限	筆記試験 45分	筆記試験	45分
<p>受講上の注意</p> <p>予習課題は毎回必ずやってくる。講義は記入済み事項を説明しながら進めるので、聴いて考える時間が主になる。講義中、出席小紙、またはロイロノート経由で質問を受け付ける。講義後に、資料の記入事項を清書し、順番に綴じていけば、マイノートができる。自分で調べたこと(自習事項)を追加すれば、高評価される。成績は筆記試験とレポート(マイノートと国試過去問課題)の総合評価とする。学生による授業評価(出席小紙): 自己学習を前提として、講義内容を改善するための前向きな意見を求める。</p>			<p>学習方法 レポート 評価方法</p>
<p>使用するテキスト</p> <p>① 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 ② 系統看護学講座 準拠 解剖生理学ワークブック 医学書院 ③ 生体のしくみ標準テキスト 第3版 新しい解剖生理学, 医学映像教育センター</p> <p>参考文献</p>			